

外国人介護職員の受入れと交流事業に関する活動事例報告

神戸市認知症介護指導者 松浦慎介

キーワード: 外国人介護職員、特別養護老人ホーム、異文化間コミュニケーション、認知症ケア

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

EPA 介護福祉士候補者の受け入れにより認知症ケアを実践する介護職員を確保するとともに、日本人介護職員を海外にある看護大学に派遣することで、日本で実践される「認知症ケア」を伝える。また、日本人の介護職員が自己理解を深め、専門職としての資質向上を図る。

【活動内容】

2015年から2019年の5年間で、フィリピンからEPA介護福祉士候補者4名の受入を行った。受入時から、総合相談窓口、生活支援、職場支援、学習支援と各担当者を決定し、候補者を育成。海外派遣では、日本で実践される介護技術や認知症ケアの授業を2016年からベトナムにある2ヶ所の看護大学で年2回、2019年には、フィリピンにある2ヶ所の看護大学で2回、実施した。

活動のきっかけ、背景(その他:管理者としての立場で)

当事業所では、特別養護老人ホームに対するニーズを根拠に、新規事業を展開してきた。しかし、介護職員の新規採用は年々、困難な状況が発生する一方、より複雑で多様化していく介護ニーズに対応できる人材の確保と教育も考えていかなければならない状況にあった。従来通りの選択を繰り返すだけでは、事態の改善には繋がらないと判断し、市内で評価を得ていたEPA介護福祉士候補者の受入と新規事業で関わりのあった企業と連携して、「社会福祉従事者の海外派遣プロジェクト」の取り組みを開始した。

活動の経過と成果

【活動の経過】

EPA介護福祉士候補者の受入は、2015年12月に初めて、フィリピンから2名候補者の受入を行い、その後もフィリピンから候補者を受け入れた。候補者が、母国とは異なった環境でも生活を送ることができるように、買い物、医療機関、公共交通機関の案内などの支援を行った。学習支援は、勤務時間内にJICWELSの学習教材を使用した学習や集合研修への参加支援を行い、今年度からは、eラーニングを活用した日本語学習と介護福祉士国家試験対策講座の受講支援も行った。社会福祉従事者の海外派遣プロジェクトについては、授業設計の段階から、プロジェクトに賛同し参加した他法人の職員とともに、カリキュラム、シラバス、講義資料を共同で作成した。現地の授業は1大学に対して1回あたり2日間の授業を実施し、ベトナムでは述べ10回、フィリピンでは4回の授業を実施した。また、歴史資料館の見学や障害者、高齢者施設の見学と交流も行った。

【活動の成果】

EPA介護福祉士候補者4名の内、既に2名が介護福祉士国家試験を受験し、1名が合格したが、もう1名は不合格となり帰国した。利用者等の候補者に対する反応は好意的で、職員からは候補者の姿に刺激を受け、介護へのモチベーションが向上したといった声も聞かれた。社会福祉従事者の海外派遣プロジェクトでは、1回あたり平均30~40名の受講生数であったが、200名を超える受講生になる時もあった。また毎回、授業実施後に、受講生を対象にしたアンケート調査を実施した。授業の理解度は「とても理解できた」「ある程度、理解できた」の回答が90%超、「日本の介護に関心が高まった」とする回答も毎回、90%を超える結果であった。

今後の展望

質の高い認知症ケアを提供するためには、介護に関心が高く、向学心に満ちた人材であるならば、国籍で区別するのではなく、就労の機会を提供することが重要だと考える。従って、2021年には、技能実習生2名(ベトナム)、特定技能2名(ネパール)の受入を決定している。今後は、介護職員のキャリアビジョンの一つとして、海外で認知症ケアに携わる日本人の育成も視野に入れた実践を積み重ねていきたいと考えている。